

## 題名 植物標本を作る

### 1．学習のねらい

- (1) 植物をくわしく観察して、自然に親しみます。また、植物の体のつくりを知ります。
- (2) 研究資料としての標本は、世界にたった一つしかない貴重なもので、最も説得力のあることを知ります。
- (3) 身の回りにはたくさんの植物が生えていて、それぞれに名前がついていることを知ります。

### 2．実施について

- (1) 実施時期：1年を通して可能ですが、多くの花が咲く春から秋が適当です。
- (2) 実施場所：校庭や近くの空き地、公園、道ばたなど
- (3) 指導時間：採集は2時間程度、標本作りは夏場でも10日ほどかかります。
- (4) 指導対象：中学年以上

### 3．準備するもの

- (1) 標本にする植物
- (2) 古新聞
- (3) 古新聞の4ツ折りと同じくらいの大きさの木の板
- (4) 10kg程度のおもり
- (5) 台紙にする8ツ切り画用紙
- (6) 上質紙、のり、はさみなど

### 4．学習の進め方

- (1) 植物を採集します。

はじめは、とくに目的もなく採集すればよいのですが、学習が深まれば、地域を限定したり、二つの場所を比べたり、科にこだわったり、いろいろな発展が考えられます。

植物は花や葉、茎、根など、その植物の特徴がより多く現れているように採ります。よく、葉だけ花だけなど、ごく一部だけを採りがちですから、とくに指導が必要です。

採った植物は、少なければそのまま持ち帰ってもよいのですが、多くなったり、採集地が学校から遠い場合は、ポリ袋などに入れたり、新聞にはさんで持ち帰りましょう。

- (2) 植物を古新聞にはさみ、おもりで押さえます。

採った植物は、できるだけ早く標本にします。古新聞は、一枚一枚はずして、それをまた4ツ折りにして使います。一枚に一種を基本とし、はさんで重ねていきます。植物が大きくて新聞紙からはみ出すような場合は、植物を折り曲げて新聞紙に収まるようにします。その時は、植物もまだ、しっかりしていますから形はあまり気にせず、どんどんはさんでいけばよいでしょう。何枚か重ねたら、その上に板を置き、上におもりを載せます。

- (3) 新聞紙を替えます。

新聞紙は、一日で植物の水分を吸収してしっとりします。はじめの2、3日は毎日、新聞紙を取り替えます。植物がしおれてきてくる頃なので、形を整えやすくなっています。葉の重なりや、茎のねじれなどを丁寧に整えていきましょう。それが済んだら、またおもりを載せます。その後は隔日、3日に一度、1週間に一度と間隔をあけて新聞を交換し、完全に乾燥したらできあがりです。かなり根気のいる作業です。

(4) 台紙に貼ります。

できた標本は8ツ切り画用紙に収まる大きさになっていますから、そのまま画用紙の上にバランスよく置きます。上質紙を3ミリほどの太さに細長く切り、その両端にのりをつけて標本を固定していきます。しっかり固定することは大事ですが、あまり貼りすぎないようにしましょう。

(5) ラベルを貼ります。(下図参照)

標本は、データがなければほとんど価値がありません。名前はいつでも調べられますが、他のデータを忘れてしまったら、どうしようもありません。名前が気になるのなら、採った日に調べたり、新聞をかえている作業の合間に調べたりすればよいのですが、他の重要なデータは、必ず採った日に記録しておきましょう。必要なデータをラベルに記入し、台紙のあいたところに貼付すれば植物標本の完成です。

(6) 保存します。

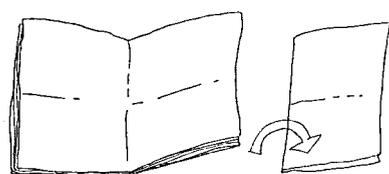
完成した標本は、できるだけ密封できる容器に入れ、市販の防虫剤を入れておきます。乾燥剤も入れておくと、カビの発生を防ぐのに効果的です。管理がよければ、半永久的に保存できます。

5. 指導上の工夫・留意点

正しい標準和名を指導することを心がけてください。

例えば、アキノエノコログサをねこじゃらしとか、オオナモミをひつつきむしなどと記入しないようにしましょう。

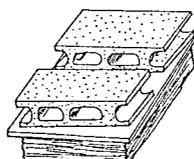
慣れないうちは、図鑑とにらめっこしてもわかりません。ゲストティーチャーに来ていただくのがいちばんよいでしょう。



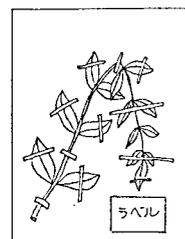
①古新聞を1枚ずつ ②半分におります  
ばらします



③標本をのせてまた 半分におります



④たくさん重ねてその上に コンパネなどの板をおき重りでおさえます



⑤乾燥したら8ツ切り画用紙におき、細く切った紙で固定していきます  
空いたところにラベルをはれば完成です

⑥ラベルの例

種名	
学名	
科名	
採集地	和歌山県
採集日	年 月 日
採集者	松下 太 (Futoshi Matsushita)
備考	